

楽器博物館ニュースNo.21 2011. 2.15 (火)

浜松市楽器博物館 〒430-7790 静岡県浜松市中区中央3-9-1 電話 053-451-1128

楽器博物館で 世界の音楽を！



Honey Nightsの皆さん

楽器博物館では、不定期ですが日曜日にゲストや職員によるサロン・コンサートを行っています。入館されたお客様を対象にしたミニ・レクチャーコンサート〈ミュージアム・サロン〉です。

2月6日の日曜日は13時から14時30分まで、展示室天空ホールで「ブルーグラスバンド」のコンサートをしました。出演は、横浜を拠点に活動している『Honey Nights』と『Time of River』の2バンドです。『Honey Nights』は、ギター、フラットマンドリン、フィドル（ヴァイオリン）、5弦バンジョー、ウッドベースと女性ボーカルの5人編成で、とても個性的な演奏でした。

『Time of river』は、ギター2本と5弦バンジョー、ウッドベースの4人編成。ボーカルの人が毎回変わって、陽気で明るく、かっこいいブルーグラス

の演奏を楽しむことができました。

ブルーグラスとは古いアメリカの音楽スタイルでカントリーミュージックの一部です。演奏にはギターやフラットマンドリン、フィドル（ヴァイオリン）、5弦バンジョー、ウッドベースなどの楽器が主に使われます。時にはリゾネーター・ギターなども登場しますが、今回は登場しませんでした。

どの楽器もとても個性的でおもしろい楽器ですが、ブルーグラスバンドに特に欠かせないのは「バンジョー」です。和音を奏でたり、メロディーでは早弾きを披露したり、音色が独特なのでリズムを表現するのも得意な楽器です。



Time of River の皆さん

楽器博物館では、昨年夏に特別展とレクチャーコンサート『バンジョー大博覧会』を開催したこともあり、展示室には美しい多くのバンジョーが並んでいます。コンサートの後、多くのお客様が展示室のバンジョーをご覧になっていました。(M.O.)

講座「楽器の中の聖と俗」

第2回「標高4000mでシークを吹く」



2月5日(土)18時30分より楽器博物館展示室にて「楽器の中の聖と俗 アンデスの祭り②」を開催しました。先月行われた第一回講座「悪魔と美女の踊り」に引き続き2回目のアンデス地方のお話しです。講師は、前回に引き続き、楽器博物館名誉館長で大阪音楽大学名誉教授の西岡信雄先生です。

今回のテーマは「標高4000mでシークを吹く」。シークとはアンデス地方を代表する笛のひとつです。長さが異なる複数の管を筏状に連ねたパンパイプの仲間です。



パンパイプはヨーロッパやアジア、中南米に古代から存在しているといわれている楽器です。伝統的なシークの素材はすべて葦。

シークには、世界でアンデス地方にしか見られない独特な演奏習慣があります。それは音階が1つ跳びになったシークを持つ2人が1組になって交互に吹くことで1つのメロディーを演奏するという習慣です。祭りでは音域の違うシークを重ね合わせたり、高音グループと低音

グループに分かれて何十人もの合奏をしたりする伝統もあるようです。

アンデスのティティカカ湖周辺の標高は4000mを超えるため、酸素濃度は通常の60%!富士山よりも高い地域に暮らす人々はこうした高地でも息が苦しくならないように2人以上の人数で交代しながらシークを吹く秘策だろうということでした。

現地の映像を見たり、講座の途中、西岡先生がシークを吹いたりしました。アンデスの生活とシークの魅力を感じるこのできる講演会でした。(M.O.)

山田潔さんから絵画 が寄贈されました!



楽器博物館の地下、鍵盤楽器ルームに通じる小ホールに新しい絵画が展示されました。その絵は楽器を奏でる女性を描いた油彩画(80×120cm)です。浜松市浜北区在住の肖像画家山田潔さんが寄贈してくださったものです。奏でている楽器は大きなタイプのマンドリンの「マンドーラ」です。この絵は、もともと楽器博物館に展示されている1890年頃のドイツの銅版画「マンドリナータ(マンドリンの調べ)」の絵画を、12年前に山田さんが気に入って拡大模写し、彩色したそうです。原画の雰囲気にならってあまり派手な彩色とせず、深みのある落ち着いた気品高い作品になっています。山田さんが栗原勝元浜松市長に「いつか博物館に寄贈したい」と約束していたもので、それが今回実現したそうです。(M.O.)